

令和8年7月17日
地域創生部文化遺産課
文化財活用係
電話 027-898-3547 内線 4692

文化財保存活用地域計画の認定について

令和8年7月17日（金）、長野原町文化財保存活用地域計画が、国の文化審議会（会長日比野克彦）の答申を経て、文化庁長官の認定を受けました。
群馬県内市町村の文化財保存活用地域計画の認定は5件目となります。

1 文化財保存活用地域計画とは

文化財保存活用地域計画は、文化財保護法の改正（平成31年4月施行）により制度化されたもので、市町村における文化財の保存と活用に関する総合的な法定計画です。地域での文化財の保存・活用について、取組の目標や方向性等が具体的に示されています。

2 今回認定を受けた文化財保存活用地域計画（詳細は長野原町作成の別添資料を参照）

- ・長野原町文化財保存活用地域計画

3 参考事項

群馬県内市町村の文化財保存活用地域計画の認定状況

- ・令和6年7月 高崎市・嬬恋村
- ・令和6年12月 館林市
- ・令和7年7月 藤岡市

4 関係機関 連絡先

- ・長野原町教育委員会事務局教育課

0279-82-4517

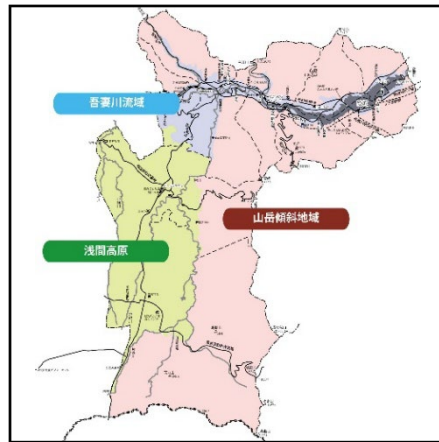
07 長野原町文化財保存活用地域計画【群馬県】

【計画期間】令和8～17年度（10年間）

【面積】133.85km²

【人口】約5千人

【関連計画等】日本ジオパーク
「浅間山北麓ジオパーク」
(H28年度)

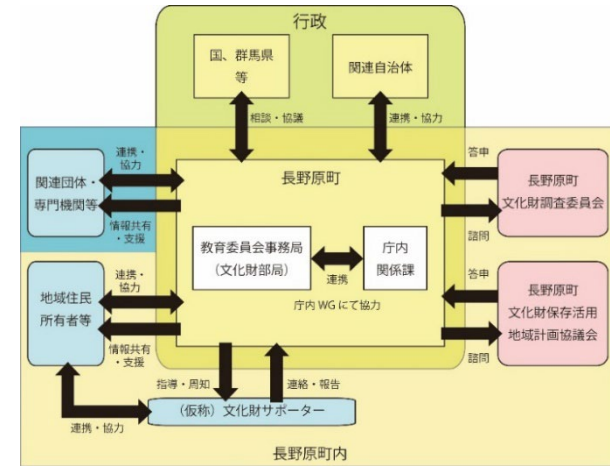


指定等文化財件数一覧

類型			国指定・選定	国選択	県指定	町指定	国登録	県登録	計
有形文化財	建造物		0	-	0	4	2	0	6
	美術工芸品	絵画	0	-	0	0	0	0	0
		彫刻	0	-	0	0	0	0	0
		工芸品	0	-	0	0	0	0	0
		書跡・典籍	0	-	0	0	0	0	0
		古文書	0	-	0	0	0	0	0
		考古資料	0	-	0	1	0	0	1
		歴史資料	0	-	0	3	0	0	3
無形文化財		0	0	0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	-	0	1	0	0	1	
	無形の民俗文化財	0	0	0	0	0	0	0	
記念物	遺跡	0	-	1	7	0	0	8	
	名勝地	1	-	0	0	0	0	1	
	動物	2 ※	-	0	0	0	0	2	
	植物	0	-	0	3	0	0	3	
	地質鉱物	1	-	0	0	0	0	1	
文化的景観			0	-	-	-	-	-	0
伝統的建造物群			0	-	-	-	-	-	0
総計			4	0	1	19	2	0	26

指定等文化財は26件、未指定・その他の文化財は4,838件把握

推進体制



歴史文化の特性

① 火山の歴史文化－活火山の恵み、災害と復興－

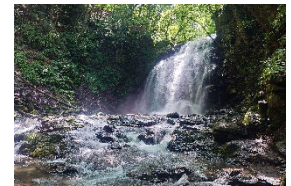
浅間山をはじめとする火山は、噴火や土砂・泥流など自然災害の脅威をもたらすものであるが、その反面、温泉地や高原などの恵みも与えてくれる。大地と人の織り成す営みは、災害（破壊）と復興（再生）を繰り返し、火山と共生して歴史文化を育んできた。



北軽井沢地区のキャベツ畑

② 高原の歴史文化－豊富な自然資源の利活用－

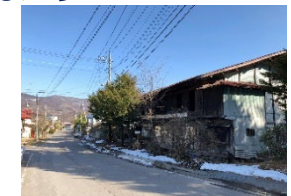
度重なる噴火活動によって形成された高原は周囲の山岳地帯と河川とを繋ぐ役割を果たしていた。これら豊かな自然環境は、鉱山資源や森林資源、水と水産資源、希少な動植物などの天然資源を供給し、先史・古代から人々の生活を支えてきた。



浅間大滝

③ 交流の歴史文化－人・モノ・コトのつながり－

先史・古代から近現代まで人々は本町で交差するように山や峠を越え、川を渡り、交流していた。人が通る場所に道ができ、道が交わる場所に集落や宿場ができた。人の住まう場所には、普段の生活とともに山を越えた先とのつながりにより豊かな歴史文化が育まれた。



旧狩宿茶屋本陣と狩宿

【基本理念】長野原町の歴史文化を住む人の誇り、訪れた人の感動となるように「守る、伝える、育てる」

課題

- 歴史文化資産の把握が不十分
- 歴史文化資産の価値や魅力の調査が不十分
- 歴史文化資産の適切な保存管理ができていない

- 歴史文化資産の公開・展示が限定的
- 歴史文化資産の整備・維持管理が不十分
- 歴史文化資産の普及活動が不十分

- 文化財部局や関連団体の担い手不足
- 多様な主体との連携不足

方針

- 歴史文化資産を把握し、情報の管理と更新を実施する
 - ・ 歴史文化資産リストの更新
- 歴史文化資産の価値や魅力を調査する
- 歴史文化資産の適切な保存管理を推進してそれらを次世代へ引き継ぐ
 - ・ 指定等を推進
 - ・ 保存活用計画の作成
 - ・ 防災・防犯の啓発
 - ・ 歴史文化資産の保全・修理

- 歴史文化資産を知る場所を整備する
- 歴史文化資産の整備と適切な維持管理を推進する
- 歴史文化資産の価値や魅力を伝える普及活動を進める
 - ・ 住民が歴史文化資産に触れる機会の創出

- 歴史文化資産保護の担い手を育てる
 - ・ 文化財部局の体制整備
 - ・ 担い手の育成・支援
- 歴史文化資産を支える人の輪を広げる
 - ・ 庁内関係課の協力体制の構築
 - ・ 文化財関連団体との連携

措置の例

①-1-b 歴史文化資産リストの管理（歴史文化資産データベースの構築）

未指定を含む歴史文化資産リストは、GIS地図を用いた一元管理とし、情報公開する基礎資料として作成・更新する。

■ 行政、専門機関、地域住民 ■ R8～17

①-2-d 天明三年被災遺跡範囲確認調査

古記録に被災状況の記載がある村がどの遺跡にあたるのかを再確認する。絵地図があるものは参考にし、ないものは現地踏査や伝承などの聞き取りを実施する。

■ 行政、専門機関、地域住民、所有者、関連団体 ■ R8～17

②-2-b （仮称）「黒源の里」整備事業（旧狩宿茶屋本陣保存整備事業）

整備コンセプトを「学びと交流の場」とし、地元住民が自由に使えるオープンスペースを兼ね備えた（仮称）「黒源の里」として整備する。

■ 行政、専門機関、地域住民、関連団体 ■ R8～12

②-3-a 講座やイベントの実施

やんぱく講座等で町の歴史文化にかかわるテーマの講座を開催する。

■ 行政、専門機関、地域住民、関連団体 ■ R8～17

③-1-b （仮称）「文化財サポーター」制度の新設・運営

地区の身近な歴史文化資産を把握することを目的に（場合によっては地区を越えて）文化財の保護活動を行なう（仮称）「文化財サポーター」を新設し、運営する。

■ 行政、地域住民、所有者、関連団体 ■ R8～17

③-3-d 観光・交流・農振事業との連携

教育旅行（見学・体験・アクティビティを取り入れた旅行プランの提案）の促進、交流連携事業や農振事業への協力、それらを通して観光協会との連携強化をはかる。

■ 行政、地域住民、所有者、関連団体 ■ R8～17

関連文化財群①

「天明三年浅間山噴火の災害と復興」

天明三年浅間山噴火の災害の痕跡と復興のあゆみを辿るストーリー。天明3年（1783）の浅間山噴火は、わが国の火山災害史上でも、特筆すべき大規模災害であり、この災害に対して、行政と地域社会が役割を分担しながら協働して復興へ向かったことが特徴である。浅間山北麓には火山災害の歴史と教訓を学べる場所がある。



天明3年浅間山噴火物故者
供養（雲林寺）



嶋木の浅間石



遠西遺跡・町遺跡
（長野原の町並み）

関連文化財群③

「周辺地域との交流による交通とムラの発展」

縄文時代から近代まで、周辺地域との交流を支える“道”の発達がムラ（村落）の形成と繁栄を導いた、交流のストーリー。道の変遷＝地域の歴史の変遷であることを明確に示し、交流が文化を育み、集落を形成し、町を発展させてきたプロセスを立体的に理解できる。本町の地理的環境から主に長野県を介して中部高地、関東・北陸地方との交流が窺え、縄文時代から近代まで、交通と交流の“連続性”を示す貴重な文化財群である。



万騎峠のブナ



野口新道



草軽電気鉄道

関連文化財群②

「吾妻牧場から始まる浅間高原開拓史」

北白川宮能久親王による吾妻牧場の開設に始まる浅間高原の近代化へのストーリー。浅間高原は、皇室牧場の開設を起点に、入植・軍事利用・戦後開拓・観光開発という多段階の歴史を経て形成された地域である。地形と気候を活かした牧場経営から始まり、戦後の開拓農業、そして高度経済成長期以降の観光リゾート化へと姿を変えてきた。その過程で生まれた歴史文化資産や地域景観は、浅間高原の歴史の変遷を物語る重要な証人となっている。



吾妻牧場碑



旧草軽電鉄北軽井沢駅駅舎



入植当初の様子（大屋原）

関連文化財群④

「天然資源に育まれた吾妻川流域の文化とハッ場ダム」

吾妻川流域が「天然資源に恵まれた山村」であり、その資源利用が生活文化を育み、近代化を促し、さらにハッ場ダム建設と生活再建へとつながる“連続した歴史”を示すストーリー。本町北部には利根川支流の吾妻川が東西に流れ、人々は周囲を取り巻く森林やそこを水源とする湧水や河川などの天然資源を利用した生活を営んだ。昭和27年（1952）に計画されたハッ場ダム事業に伴う水没地区もあり、南部と異なる歴史を辿った。



炭焼窯



百八灯



ハッ場ダム

【関連文化財群】②吾妻牧場から始まる浅間高原開拓史

ストーリー

■明治～昭和時代初期：【皇室牧場の開設と入植の広がり】明治15年（1882）に北白川宮家による吾妻牧場の開設が浅間高原開拓の出発点となり、黒岩家（黒源）がその運営に深く関わった。台湾出征における北白川宮の逝去後、牧場は民間に払い下げられ、浅間牧場、一匡邑・大学村別荘地、草軽電鉄など、その後の北軽井沢を特徴づけるエリアを誕生させた。明治16年（1883）に入植の先駆けとして旧館林藩士12戸が御所平に入植し、農牧業の基盤づくりが始まった。昭和6年（1931）に小菅地区へ10戸が入植し、農民救済を目的とした「実験入植」が行われた。牧場経営・入植・別荘地開発が重層的に進み、北軽井沢の原型が形づくられた時期である。

■戦時中：【高原地形を利用した軍事活動】広大で見通しの効く浅間高原では戦時中、旧陸軍による演習や旧海軍によるロケット（ミサイル）発射実験が実施された。地形特性が軍事目的に転用され、地域には戦時の痕跡が残された。地域の地形が国家的軍事利用に結びついた特異な時期である。

■戦後：【引き揚げ者による開拓と農業の発展】満蒙（中国大陸）からの引き揚げ者が入植し、生活基盤のない厳しい環境で開拓を開始した。水道・電気・住宅すら整わない中、森林伐採・畑作・牧草地造成を進め、高原野菜の産地・酪農地帯として地域を再生させた。苦難の中での開拓が、戦後の浅間高原の農業基盤を築いた。

■高度経済成長期以降：【観光リゾート地への転換】経済成長とともに、浅間高原は観光・レジャーの拠点として発展した。ゴルフ場・スキー場などレジャー施設が整備され、ホテル・旅館・ペンション・リゾートマンションが建設された。近年は、キャンプ場・遊園地など体験型・アウトドア型の観光が増加し、四季を通じて人々が訪れる地域となった。農牧地から観光リゾートへ、多様な産業が共存する高原地域へと変貌した。

構成文化財

関連文化財群に関する課題

- ・群を構成する文化財の詳細・現状を明らかにする必要がある。
- ・ミュージアムの展示以外でも町の歴史文化を知ることができるサテライト展示を検討し、地域を巡るよう促す取組みが必要である。
- ・現地にて散策できるマップの作成が必要である。

等

関連文化財群に関する方針

- ・群を構成する文化財の詳細・現状調査を実施する。
- ・サテライト展示を検討し、実際に現地を訪れて町の歴史文化をより深く理解できる場所や提供する情報を充実させる。
- ・現地にて散策できるマップを作成する。

等

関連文化財群に関する主な措置

①-2-i 「吾妻牧場からはじまる浅間高原開拓史」の詳細・現状調査

- ・詳細調査・現状調査を実施する。
■行政、所有者、関連団体 ■ R8～17

②-1-c サテライト展示の検討

- ・やんば天明泥流ミュージアムや長野原町立第一小学校旧校舎の展示以外でも町の歴史文化を知ることができるサテライト展示を検討する。
■行政、専門機関、地域住民、所有者、関連団体 ■ R8～17

②-3-d 散策マップの作成

- ・歴史文化の特性から設定した関連文化財群のテーマごとに「散策マップ」を作成する。構成文化財を紹介し、見学コースを設定するなど、観光事業と連携して普及啓発を推進する。
■行政、関連団体、専門機関、地域住民 ■ R8～17



吾妻牧場（吾妻避暑地南門）



高齢者教室の様子